

研修会参加報告

2017年度U-22審判員春季研修会 参加報告

----- 2017年度U-22審判員春季研修会 (TRAUM CUP2017 in SPRING) に参加して -----

・・・ サッカー2級審判員 金淵 佑亮 ・・・

3月9日から3月12日まで、茨城県鹿島ハイツにて「2017年U-22審判員春季研修会」が開催されました。

今回、このような素晴らしい研修会に参加させていただいた、関西サッカー協会、兵庫県サッカー協会の皆様に厚く御礼申し上げます。

以下、簡単ではありますが、参加報告をさせていただきます。

3月9日 (木) 13:30

<試合>

東京国際大学 SC vs 国際武道大学 B

<審判員>

R: 関口雄飛氏 (関東) AR1: 金淵
AR2: 福山大樹氏 (九州) ins: 鳥越明弘氏 (宮崎)

ラインキープはもちろんですが、タッチラインから下がってプレーを見る工夫を積極的に挑戦しました。反省会では、オフサイドのウェイト、ラインキープ、身体の向きを意識して切り替えていた点を良かったとおっしゃっていただきました。

一方で、ファウルサポートをした場面では、試合後に会話して主審と副審が思っていたことが反対だったので、もう1テンポずらすことをご指摘していただきました。

<研修会>

19:30 担当: 伊藤力喜男氏 (青森)

初めに、2日目以降に良いイメージを持てるように加速力とアドバンテージの良いシーンのポジティブな映像を見ました。

その後、『審判員として心がけること』というテーマで、①試合前後にあなたが心掛けて取り組んでいること②試合中に心がけなければならないこと、取り組むべきこと、必要なことは何だと思いませんか、という2つについてディスカッションをしました。



3月10日(金) 9:00

<試合>

国際武道大学 B vs 横浜国立大学 A

<審判員>

R: 金淵 AR: 帯同審判

ins: 濱名哲也氏(埼玉)

巻き込まれないポジショニングや全体を視野に入れる事とマネジメントを意識して試合に臨みましたが、縦を意識しすぎるあまり動きの幅が狭くなり、プレーの近くに位置してしまうことが多かったです。

チームのスキル・戦術によっては、真ん中に寄らなくても自然に巻き込まれるので後方から見て状況によって向きを変える事、選手の使いたい真ん中に入らないことに加え、どんな時でも読みを入れてプレーに入らないということをご指摘いただきました。

そのテクニクとしてDFの影を使い、後ろから追う方法を教えていただきました。注意するときの距離は大事だということ、FKのクイック、オフサイドキャンセルなどは「もっと大げさにやってよい」とご指導いただきました。

<研修会>

19:15 担当: 岸賢治氏(神奈川)

初めは2人ペアになり、他己紹介をやりました。

『主審と副審の協力について』というテーマでは、ファウルと不正行為をサポートする中で副審として留意点やディスカッションでは映像を見てどのようなチームワークが必要になるかということを話し合いました。

その中で主審のポジションの死角を意識しなければいけないこと、協力⇒試合のコントロールに繋がることを再確認できました。

3月11日(土) 9:00

<試合>

上武大学 B vs 日本体育大学 C

<審判員>

R: 金淵 AR: 帯同審判

ins: 岸賢治氏(神奈川)

前日の課題を意識して入りました。



反省会では介入しなければいけないことを今以上に整理し、注意と決めつけず状態に応じてやること、注意に冷静さがなく見られてしまうので距離間を大事にすることをご指摘いただきました。

警告も繰り返しのランクを下げず、その行為自体の悪さを知らせるにはどう伝えるかということをご指導いただきました。報復ファウルをするチームをどう抑えるかの手段を考えていきたいと思えます。

動きの面では、エリアを空ける動きができた点は良かったが、逃げなくても良い状況を数プレー前から察知していくことを意識したいです。

<研修会>

19:00 担当：伊藤力喜男氏（青森）

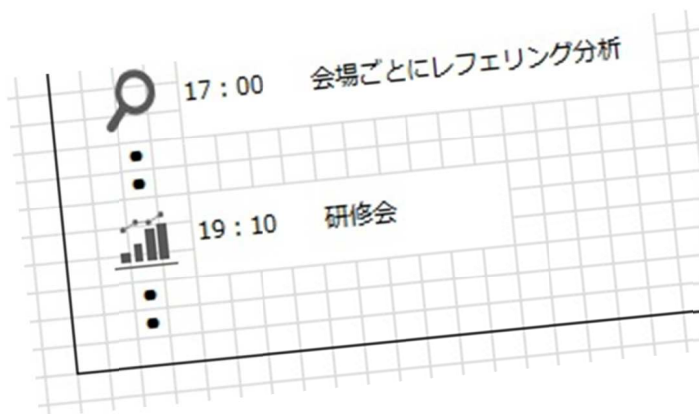
アイスブレイクとして、初めに全員でAKB48の「恋するフォーチュンクッキー」を踊りました。

そして、『動きとポジショニング』というテーマで、映像を見て、①状況を説明②監視すべきことは何か③動きとポジショニングについての課題についてディスカッションをしました。

何も考えず先取りするのは窮屈であり、ルックアップしているボールホルダーは危険であるということ等を学びました。

右表は監視すべき6つのこと（事柄）です。

たえずこれらを意識して良いポジショニングを取っていきたいです。



監視すべき6つのこと(事柄)	
自分の位置	→ 常に
攻撃側の位置	→ ボールから目が離せるとき
守備側の位置	→ ボールから目が離せるとき
ボールの位置と ボールホルダーの位置	→ 常に
スペース	→ ボールから目が離せるとき
副審の位置	→ ボールから目が離せるとき

3月12日(日) 8:45

<試合>

東北学院大学 FC vs 横浜国立大学 A

<審判員>

R：金淵 AR：帯同審判
ins：鳥越明弘氏（宮崎）

この研修会の最後の試合なので、まずはやり切る、そしてこの2日間で学んだことに挑戦していき次に繋げていけるように臨みました。

前半のファーストファウルにアドバンテージを適用し得点に繋がったものをはじめ、この試合でアドバンテージの適用は選手のやりたい気持ちを尊重してレフェリーも続けるというメッセージのこもったシグナル、声が出せていてとても光った、とおっしゃっていただきました。

動きの面についても幅が広く、レフェリーサイドの深い所まで走りこめており、良い判定につながっていて、DFの影を利用するなどして巻き込まれることがなくなり、この研修で取り組んだことが成果に繋がりました。最後に、見た目もかっこよくやろうとアドバイスをいただきました。



【まとめ】

研修会では、自分の課題に向き合い、多くの事を吸収しようと思い臨みました。すぐに良くなるものではないと感じていますが、少しずつ改善できるようにいろいろ考えながら失敗を恐れずにやっていきます。

また、全員見ることはできていませんが、同世代の審判員のレフェリングを見て学ぶこともたくさんあり、自分ももっと頑張らなければいけないと感じました。

この研修会で学んだことを今シーズンの審判活動に生かしていきたいです。

今回の研修会に派遣していただいたことに深く感謝申し上げます。

ありがとうございました。



同世代のレフェリングを見て、学びと刺激もらった4日間となりました。